

令和5年度 燕市一般会計（普通会計）決算の概要

- 令和5年度の一般会計（普通会計）決算は、歳入総額が前年度比5,657万6千円減の468億910万円、歳出総額が4億4,021万8千円減の439億1,214万3千円となりました。形式収支は28億9,695万7千円、形式収支から翌年度繰越財源を控除した実質収支は、前年度比1億4,829万5千円増の24億6,610万2千円となっています。
- また、実質収支の増減を表す単年度収支から財政調整基金の積立・取崩を加減した実質単年度収支は、前年度比8億9,960万5千円減の1億7,419万4千円のマイナスとなりました。
- この結果、財政調整基金残高は、前年度末から3億2,348万9千円減の32億4,748万9千円となっています。

区 分	令和5年度	令和4年度	比 較	歳入歳出の主な増減内訳
歳入総額 (a)	468億 910万円	468億6,567万6千円	▲ 5,657万6千円	【歳入】 市 税 + 2億8,084万3千円 地方交付税 + 2億9,080万2千円 国庫支出金 ▲ 4億5,156万4千円 県 支 出 金 ▲ 6億4,222万4千円 繰 入 金 + 11億8,332万円 繰 越 金 + 3億6,027万3千円 市 債 ▲ 10億6,280万円
歳出総額 (b)	439億1,214万3千円	443億5,236万1千円	▲ 4億4,021万8千円	
形式収支(a)-(b) (c)	28億9,695万7千円	25億1,331万5千円	+ 3億8,364万2千円	
翌年度繰越財源 (d)	4億3,085万5千円	1億9,550万8千円	+ 2億3,534万7千円	
実質収支(繰越金) (c)-(d) (e)	24 億6,610万2千円	23億1,780万7千円	+ 1億4,829万5千円	
単年度収支 (f)	1億4,829万5千円	3億3,850万2千円	▲ 1億9,020万7千円	
積立金＋繰上償還 (g)	34億7,414万8千円	29億7,844万5千円	+ 4億9,570万3千円	【歳出】 扶 助 費 + 4億4,498万7千円 投資的経費 ▲ 10億 200万2千円 物 件 費 ▲ 2億4,437万6千円 補 助 費 等 ▲ 3億1,745万3千円 積 立 金 + 4億8,223万4千円
積立金取崩額 (h)	37億9,663万7千円	25億9,153万6千円	+ 12億 510万1千円	
実質単年度収支(f)+(g)-(h) (i)	▲ 1億7,419万4千円	7億2,541万1千円	▲ 8億9,960万5千円	
財政調整基金残高	32億4,748万9千円	35億7,097万8千円	▲ 3億2,348万9千円	

【令和5年度決算のポイント】

- 令和5年度決算は、3つの人口戦略を柱に、急速な人口減少やDX・脱炭素といった本市を取り巻く社会潮流への対応に重点的に取り組む一方で、長引く物価高騰への対策として各種支援施策を実施したことなどにより、合併後3番目の決算規模となりました。(1番目：R2年度、2番目：R4年度)
- 物価高騰対策には国の交付金やふるさと燕応援基金を最大限活用したほか、堅調なふるさと納税や社会経済活動の回復に伴う市税収入増に加え、経費節減などに努めた結果、実質収支の黒字を確保しました。

【令和6年度以降の財政動向】

- 物価高や金利上昇、急激な為替変動による企業活動への影響など、財政運営を取り巻く環境に不透明感がある中、子育て施策の更なる充実を含む人口減少対策をはじめ、地域社会のDX、脱炭素社会の推進など、急速な社会環境の変化に対応した取組が必要であり、これに伴う歳出増が見込まれます。
- 財政調整基金残高は、令和6年度当初予算等の財源として活用したことにより5億2,140万5千円となりましたが、9月補正予算において令和5年度繰越金等を積み戻した結果、19億4,989万2千円となりました。引き続き、社会経済動向を注視するとともに、行財政改革及び自主財源確保に努めてまいります。